

令和6年度 ケーブルテレビ Net3 番組審議会

1. 開催日時 2025年2月20日(木) 午後2時～3時30分
2. 会場 滑川市立博物館2階 多目的ホール
3. 出席委員(敬称略)

<会長>

山西潤一 (滑川市/富山大学名誉教授)

<委員>

坂口司 (滑川市/元教員・初任者指導員・部活指導員)

岩木けい子 (立山町)

金川良子 (立山町)

虎溪智眼 (上市町/若杉愛児保育園 園長)

堀田博志 (上市町/南加積小学校 PTA 会長)

※以下の委員は書面審議

高木久斗 副会長 (滑川市/滑川 JC 幹事)

<ケーブルテレビ Net3 出席者>

末永祐士 (制作課課長)

河西志津子 (制作課員)

宇野津達也 (制作課員)

佐々木裕太郎 (制作課員)

嶋川渡 (技術部参与)

【放送番組審議】

▽Net3 パラダイス+（6月1日週放送）

- ・ 小学校の周年行事を特集していた回だったが、主催者側は「記録を残す」という部分まではなかなか手が回らない事が多い（この行事でも、小学校側は定点カメラ一台を置くのが精いっぱいだった）。そうした中で、取材を通してしっかりと記録され、編集されるとするのは学校や地域行事を運営する立場として非常にありがたいと感じている。

- ・ ドローンの使用が効果的であると感じた。コメントも幅広い関係者から拾えているので、コミュニティの行事として認識できる良い構成になっていた。

- ・ 朝昼夜と同じ内容を放送しているのか？
 - この番組については、一日4回・週28回、同じ内容を放送している。
 - 時間帯によって見ていただける視聴者層が変わるため、できるだけ多くの方にご覧いただきやすいよう、特に自社制作番組は複数回の放送を基本としている。
 - それでも「見逃した」という連絡をいただく事も多く、その場合は「Net3 リクエストアワー」という番組で再放送する事で対応している。

- ・ 今どきの若い人はスマホやタブレットで動画を見ている。ケーブルテレビの番組も、どこかにアップされてスマホ等から視聴できるようなシステムにはできないのか？
まずは若い人に見てもらおうという事が重要だと思う。しっかりとした番組を制作しているのに、見てもらえないのは残念。
 - ケーブルテレビは契約者の契約料で成り立っている関係上、契約者以外が視聴できるようにするのは難しい面もある。
 - 契約者のみに対する限定公開はどうか？
 - 以前検討したことはあり、技術部と相談させていただく。
 - ニュースの内容によっては学校の授業で教材にできるものもあるだろうし、過去の記録を活用する意味でも公開を検討していくのは必要ではないか？
例えばお店紹介のコーナーにしても、一回きりの放送で終わるのではなく、どこかに集約されていて、そこを観れば色々確認できるようになっていれば有用ではないか

- ・記録としての価値を高めるなら、画質もより高いもの（4Kなど）で残すことが必要ではないか？

→撮影、編集、再生、それぞれの環境条件が絡んでくるので、4K以上の画質で撮影したとしても、各ご家庭の視聴環境がそれに対応していなければ高画質では視聴できない。全対応させようとするると撮影・編集・放送機材が非常に高額になることもあり、現時点では内容を考慮しつつ「一部貴重な素材については4K撮影も検討する」という形にならざるをえない。

県内全体を見ても、4Kに完全対応している局は少ない。

▽ご近所ニュース（8月17日週放送）

- ・地域行事が廃れていく、なくなっていくという現状がある。こういったローカルのな、「地域ががんばっている」という状況取材し、放送してもらうことには価値があると思う。

- ・情報収集はどのように行っているのか？

→電話やホームページを介しての取材依頼が中心。今年度は番組制作部のSNSアカウントも運用を開始し、そちらにも地域の方々から情報提供をいただいている。もちろん、SNSや新聞など、他メディアからの情報収集も行っている。また、取材先での会話から次の取材のネタをいただくこともある。

ケーブルテレビは即時性を求めるメディアではないので、様々な話題をつなげたり深掘したりする役割があると思っている。

- ・学校や教育委員会と連携を取って、ニュースとして撮影したものを教材として（他校はこうやっている、という事例紹介など）提供すれば今後とても価値が生まれるのではないか？

→「ケーブルテレビだから取材OKだがネットなど他媒体に出すならNG」という方も多い。アーカイブ的に一般公開もしたいと思うが、取材対象者の意向も確認しながらとなるためなかなか難しい部分もある。

→現場で取材許可をいただく際、「ネットで公開される可能性もある」という形で進める必要が出てくる。例えばNHKと共同制作している「富山かがやき物語」は、NHK

+で公開される関係上、ネット公開の許諾もいただいている。そうした形を他のすべての取材についても広げることになる。

現実的には、(例えば) 合唱コンクールなどでさえ「(ケーブルテレビにも) 映ってはいけない」という子もいて苦労しており、さらにその先の許諾までもらうとなると取材そのものが難しくなるケースが増えてしまう。

→映りたくない子はどのように増えてきたのか？

→家庭の事情や顔をさらす事への忌避感など、それぞれの理由がある。

子供は映りたがるが親が嫌がるというケースも多い。

- ・この番組で公民館の話題を取り上げていた。老人たちは映してもらうことで「あの人まだ達者やったわ」と、テレビを介して健在である事の報せになるケースもある。人であれ、イベントや場所であれ、「(高齢で自分は今もう現場に行けないが) あれが今もまだある」という情報そのものが嬉しい高齢者もいる。地域の小さな行事が映像として放送されることはそうした「小さな喜び」を生み出していて、とても価値があると思う。

▽ポップル (1月18日週)

- ・イベント情報を事前告知できる枠というのはとてもいいと思う。これはどういった形で情報を募集しているのか？

→番組内での呼びかけはもちろんとして、番組制作部が運用している SNS アカウントでも告知している。一年弱続けてきて、少しずつ認知度が高まり、イベント主催者側から SNS に連絡をいただける事も増えてきた。いただいたイベント情報はニュース班とも共有し取材候補にも加えており、このコーナーだけではなく他の取材にも役立つ事も増えてきている。

→これは有料？無料？

→無料告知となっている。多くの情報が集まるようになれば、視聴者にとっても見る意味が高まっていき、番組の価値も上がっていく。まずはこうした番組の「継続」が重要と考えている。

- ・トークバラエティ、とても楽しく拝見した。地域の話を楽しそうに話してくれている部分はもちろん、サウンドライブラリのような(地域性のない)コーナーも、ただ曲を流すのではなくとても細かい情報までトークしてくれていて感心した。曲は知っていて

も、あんなエピソードまでは知らないのですが、さらに曲に対する興味も高まった。今年始めた番組という事だったが、こういうトークバラエティは非常にいいと感じた。

- ・昔楽しく見ていた「電波少年」を思い出した。グリーンバックを活用しての編集、出演者が大きくなったり小さくなったりするのも見ていてとても面白いと感じた。内容とか時間割もこなれた感じでいい番組だと思う。(来年の放送はなしと聞いて)「ああ、また変えられるのか」と残念。
- ・(ディレクターが)細かいことまで調べているというのはあるだろうが、(出演者の)元々の知識の幅が広いのだろうと感じた。小ネタやちょっとした知識を話す時が本当に嬉しそうで、自分としては大変好ましく見ることができた。
- ・自分は「電波少年」は知らなかったが、素直に演出が楽しいと思って見ることができた。サウンドライブラリで「マツケンサンバ」が取り上げられた時、「ああ、やっぱり意識している視聴者の年齢層は高いよね」と一瞬思ったが、次の曲は(若者に大人気の) Official 髭男 disarm で感心した。若い人にも見てもらいやすいようにうまくバランスを取っている事が伺える。番組全体として、こう言うのは失礼かもしれないが、今までのケーブルテレビの番組よりずっと若い人に受け入れられる番組だとすごく感じた。
- ・インスタグラマーの方との掛け合いもすごく自然で、小ネタみたいなものも色々出てきて、楽しく見られたなと思います。

(了)